

社会科授業研究の教育実践学的方法論の構築をめざしてー問題の所在ー



梅津正美
(鳴門教育大学)

社会科教育研究の規定

社会科教育研究は、現に学校現場でなされている社会科教育実践の事実(カリキュラム、授業、評価、教科書、など)を分析・説明し、そこに内在する問題点を克服できる社会科教育理論(理論仮説)とそれに基づく教育実践を創造・改善していく営みである。



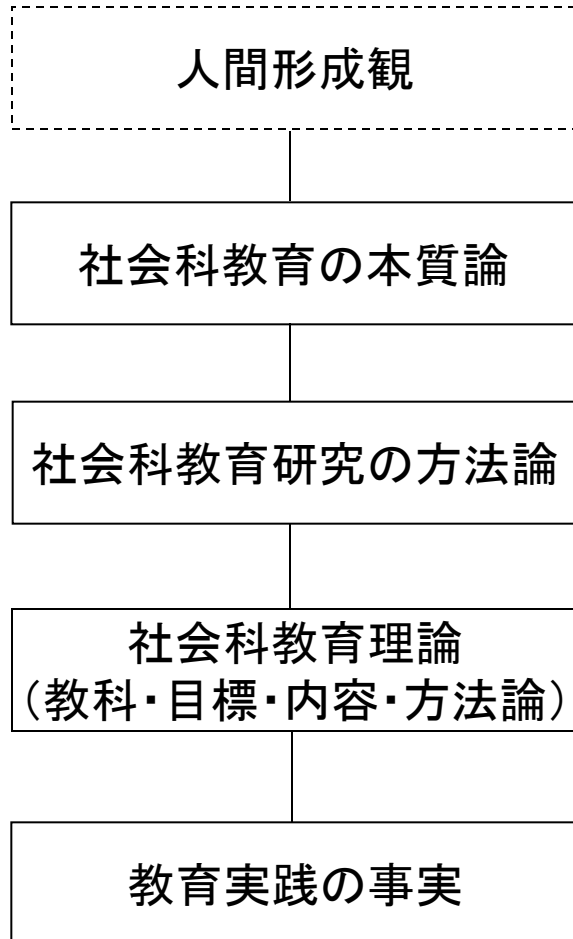
社会科教育の「理論」と「実践」の結びつきを解明する方法としての①分析・説明と、②創造・改善

本プロジェクトにおいては、「社会科授業開発研究(社会科授業づくり研究)」(方法②)を先導役にして、方法①と方法②との関係をふまえた社会科授業研究方法論を中心に議論したい。

研究方法の基本原則

1. 社会科教育研究においては、実践の事実から課題を抽出し、実践の事実によって課題解決の方法を説明していかねばならない。
2. 社会科教育研究においては、論の展開に用いられる概念は、実践の事実により検証（反証）できるように定義され、しかも統一した用法を保持しなければならない。
3. 社会科教育研究に固有の方法は、社会科教育に関わる事象（授業やカリキュラムなど）を、目標・内容・方法の各側面から捉え、その相互の連関を説明していくことである。

社会科学教育研究の認識対象



これら5つは、後者が前者の認識対象になるという関係で結びついている。

人間形成観と本質論・教科論

二つの立場

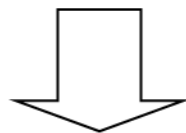
1. 人間形成のためのひとつの教科教育としての「社会科教育」・・・「社会科でも」
2. 「社会科教育」に固有の人間形成をめざす・・・「社会科でこそ」



社会科教育研究において採るべき立場・・・2

社会認識論と社会認識形成論の関係

社会認識論
（「社会をわかること」に関する理論）



社会認識形成論
（「社会を教えること」に関する理論）

教科論

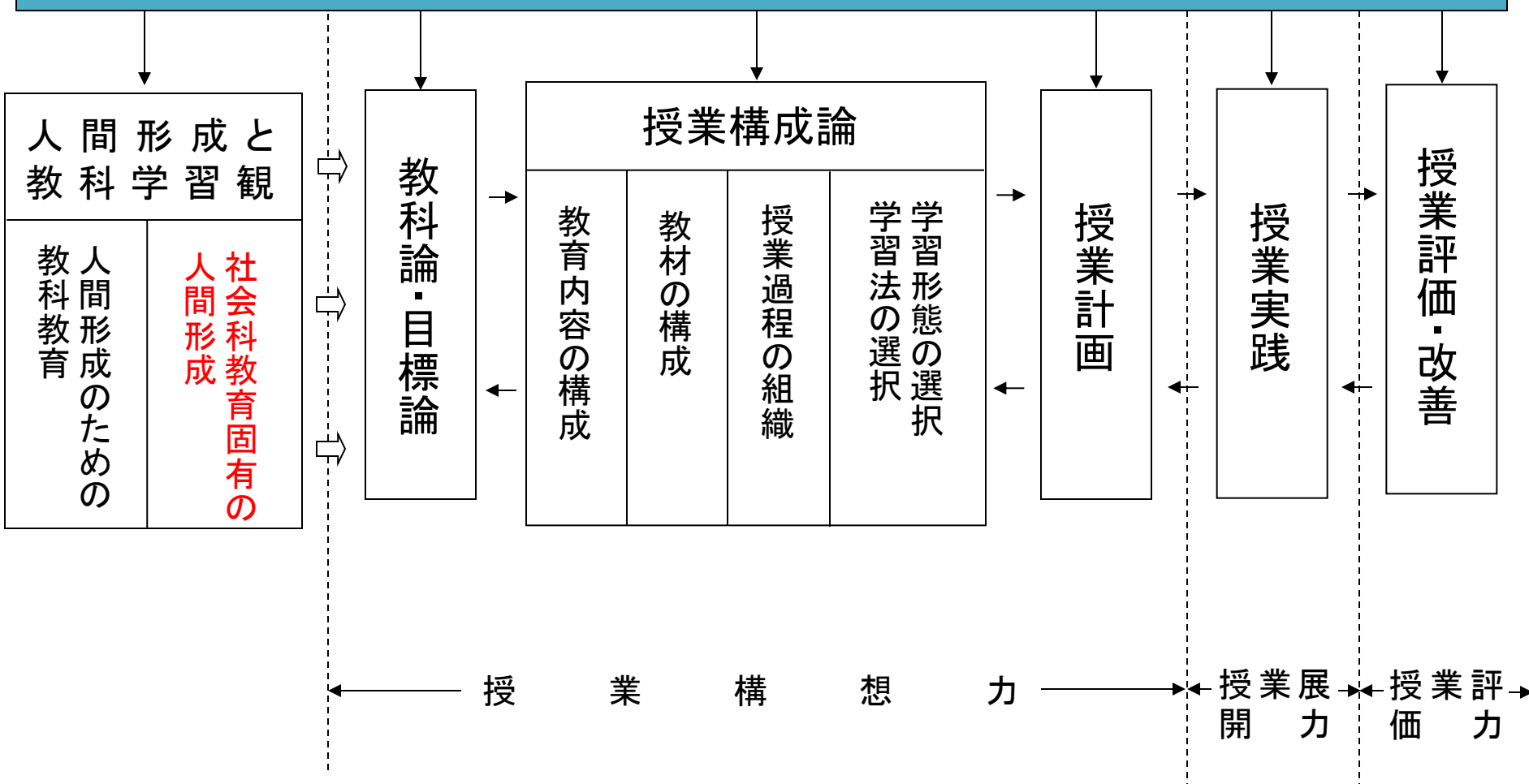
目標論

内容論

方法論

社会科授業研究の基本的枠組み

子どもの個性、実態／教師のキャリア、ニーズ／社会状況・社会要請／制度／学問の進展



社会科授業研究の記述の論理－開発型の場合－

1. 目的 → 「研究の目的は何か」「教育目標は何か」
2. 定義 → 「教育目標はどのように定義できるか」
3. 動機 → 「今なぜその研究や教育目標が要請されるか」
4. 分析 → 「先行研究の到達点は何か」「残された課題は何か」
5. 理論 → 「教育目標を達成する授業構成論をどう立てるか」
6. 計画 → 「理論に基づいてどのような授業計画を開発するか」
7. 実践 → 「理論と計画を、子どもを踏まえてどう実践するか」
8. 評価 → 「実践を通じて子どもはどのように反応したか」
「教育目標が達成されたとする根拠をどのように確定できるか」
9. 改善 → 「研究の特質と限界は何か」「課題をどう克服するか」

プロジェクトの研究課題

1. 子どもの学習の特性の解明とそれを踏まえた授業開発の手法の確立
2. 研究レベルで提案された授業理論・モデルの、学校教員による実践への変換の論理の解明と具体的な手だての提案
3. 授業理論の有効性を実証する授業評価・改善の方法の構築
4. 授業研究を推進するための参照点となる社会科授業研究の評価規準(スタンダード)の構成

主要参考文献

1. 内海巖編『社会認識教育の理論と実践－社会科教育学原理－』葵書房, 1971年
2. 『教科教育研究の理論的枠組みと体系化に関する総合的研究』1997年
(平成7・8年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(1)研究成果報告書, 研究代表者 工藤文三)
3. 森分孝治編『社会科教育学研究－方法論的アプローチ－』明治図書, 1999年
4. 全国社会科教育学会編『社会科教育学研究ハンドブック』明治図書, 2001年
5. 草原和博「教科教育実践学の構築に向けて－社会科教育実践研究の方法論とその展開－」兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科『教育実践学の構築－モデル論文の分析と理念型の提示を通して－』東京書籍, 2006年, pp.35-61.
6. 全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書, 2011年
7. 「社会科教育研究の方法論の国際化プロジェクト 成果報告」(研究代表者 棚橋 健治)全国社会科教育学会編『社会科教育論叢』Vol.48, 2012年
8. 梅津正美「社会科をなぜ「社会科」と呼ぶのか」社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書, 2012年, pp.332-339.